



胎内市立築地中学校  
令和8年1月27日  
NO. 10  
文責：校長 稲生 一徳  
学校だより作成委員会

## 春に向かう足音

校長 稲生 一徳

「ひばり鳴く広きこの丘〜♪」で始まる校歌。そして、この学校だよりのタイトルの脇の鳥のイラストも「ひばり」です。

築地中の象徴でもある「ヒバリ」について調べてみました。

ヒバリは春になると、晴れた日に空高く舞い上がってさえずります。この晴れた日に鳴くことから「日晴（ひばる・ひばれ）」になり、それが「ヒバリ」になったというのが、名前の由来になるようです。ヒバリの漢字表記は「雲雀」。そして英語名は「Skylark」直訳すると「空を愉快地に飛び回る鳥」という意味になります。

ヒバリの生態は、一年中同じ場所に留まる留鳥で、地面の上で行動することが多く、巣も地上に作ります。オスは春の繁殖期になると上空を長時間旋回しながら、さえずりを行う。この行動を「揚げ雲雀」と言い縄張り・高鳴き宣言とのこと。

江戸時代初期の有名な俳人の松尾芭蕉は「永き日を囀（さえず）り足らぬひばり哉（かな）」と有名な句を残しました。意味は、「日の長い春の一日、小さな身体で空中高く上がり、さえずり続ける。それでも、さえずり足りないのか、さえずり続ける、ひばりよ。」と春を謳歌する一句になります。この碑がある三重県桑名市の了清寺では「うららかな春の気分の中に、雲雀の天性を捉え、同時に『自得』の境地を深く見つめる作品。『自得』とは、生き物は皆それぞれ天から与えられた性に従って楽しく生きているという意味があり、荘子哲学から出た自然観である」と紹介しています。

ひばりは春の訪れを知らせる鳥です。ここ数日の厳しい寒波に春が遠く感じられますが、もう1月18日に沖縄では桜の開花宣言を発表しました。学校の前庭の桜の枝先を見ると蕾（つぼみ）ができていました。春への準備が始まっています。どんなに厳しい冬であっても、春を告げる桜は咲きます。何となく新しい転機、人生の変わり目を予感させてくれます。

だから数ある花の中で、桜は誰にとっても特別な花です。

また、桜は学校に似合います。学校の思い出の中で、人生の節目の季節「春」には、いつも桜が咲いています。桜が出会いの懐かしさと、別れの切ない感情を呼び起こすのは、そのためなのかもしれません。

人の成長をその花にたとえるなら、幼いつぼみが思いがけない速さで膨らみ、花は群れ競って咲き誇り、雨や風に耐え、やがて花びらはそれぞれ風に舞い飛んでいきます。

そして、桜の樹は青々とした葉を茂らせ、夏に向かい、年を経るごとに一回りずつ大きくなっていきます。桜の花びらは卒業生、桜の樹は在校生が学ぶ校舎のように感じます。

20日に築地小の6年生を対象に入学説明会を実施しました。23日には乙中学校との合同体育祭に向けて両校の生徒会役員の顔合わせ会をしました。また、2月の生徒総会では引継ぎが行われます。少しずつ少しずつ築地中学校も春に向かう足音が大きくなります。

## 築地中・乙中合同体育祭に向けた第1回交流会を行いました

来年度、乙中学校と築地中学校は、プレスポ胎内において合同で体育祭を実施する予定です。1月23日（金）には、乙中学校の生徒会役員の皆さんと先生方に築地中学校へお越しいただき、第1回交流会を開催しました。

この交流会は、両校の生徒会役員と教職員が顔を合わせ、体育祭について自らの思いや考えを出し合い、来年度の方角性を検討することを目的としています。

当日は、はじめに自己紹介を行い、アイスブレイクとして「来年の体育祭について考えていること」を一人ずつ発表しました。その後、小グループに分かれ、「どのような体育祭にしたいか」「不安に思うことや心配なこと」「これまでの体育祭で『よかった』と思うこと」をテーマに意見交流を行いました。

生徒たちは、まず互いの学校の体育祭について紹介しました。「乙中では応援ではなく、ダンスパフォーマンスをしている。授業でははっぴを作っている」「築地中では、縄跳びを『築中ギネス』として取り組んでいる」など、両校の違いが話題となりました。「そんな競技もあるのか」「楽しそう、やってみたい」といった声も上がり、活発な話し合いが行われました。

大切にしたいこととしては、「意見を出し合い、みんな楽しく参加できる体育祭にしたい」「競い合うことで仲を深めたい」「相手の学校についてよく知りたい」などの意見が出されました。一方で、「各競技の得点や勝敗が心配」「みんなで交流できるか不安」といった声もありました。

これらを踏まえ、「どのような体育祭にしたいか」についてさらに意見を深め、「お互いの伝統を尊重する体育祭」「協力して楽しめる体育祭」「競い合いながら関係を深める体育祭」「ユニークな応援パフォーマンス（はっぴや小道具など）のある体育祭」「各軍を象徴するパネルのある体育祭」「生徒が考えた種目のある体育祭」などの願いが出されました。

今後は、全校生徒からも意見を募り、交流会の様子を発信しながら、他に例を見ない合同体育祭をよりよいものにしていく予定です。生徒たちの主体的な取組に、今後も大いに期待しています。



## 入学説明会を行いました

1月20日（火）、新入生と保護者の皆様に築地中学校へお越しいただき、説明会を行いました。学校生活や学習、きまりなどについて説明し、新入生は不安と期待を抱きながら真剣に話を聞いていました。令和8年度以降の部活動の地域展開については、胎内市教育委員会からも説明していただきました。

授業見学では、1年生は英語、2年生は社会、3年生は総合的な学習の時間の授業を新入生に見てもらいました。真剣に授業に取り組む在校生の姿に触れ、新入生も気が引き締まった様子でした。また、新発田警察署胎内分庁舎から講師をお招きし、インターネットトラブルの防止をテーマにご講話をいただきました。

最後に、通学用ヘルメットの採寸を行いました。例年、後援会の皆様から通学時の安全のため、通学用ヘルメットを新入生に贈呈いただいております。今年度も、4月の入学式に新入生へ配付する予定です。

## 薬物乱用防止教室を行いました

1月21日（水）、2年生を対象に、学校薬剤師の相澤宗一郎様を講師として「薬物乱用防止教室」を実施しました。「世界でひとりしかない自分を守るために」をテーマに、法律で禁止されている薬物は一度でも使用すれば乱用にあたること、また医薬品であっても、病気やけがの治療以外の目的で使用したり、決められた用法・用量を守らずに使用したりすることも薬物乱用になることを学びました。

さらに、薬物乱用のきっかけは「好奇心」や「仲間はずれが怖い」といった気持ちから、「少しだけ」という軽い判断で始まることが多く、気付いたときには抜け出せなくなる危険性があることについても教えていただきました。

授業の後半では、友達や先輩から違法薬物の使用を勧められた場面を想定し、断り方のロールプレイを行いました。

授業後の振り返りでは、「違法薬物はもちろん、市販の医薬品のことを詳しく掘り下げて解説してくれたおかげで危険性を改めて知ることができた」「もしも誘われたら自分を守るために今日学んだことを活かしたい」等の記述がありました。

## 生徒総会に向け、議案書審議を行いました

生徒総会に向けた議案書の審議が、1月19日（月）に行われました。2月13日（金）開催の第2回生徒総会に向けて、各クラスで協議しました。

第2回生徒総会は、今年度の生徒会活動のまとめとなる重要な会です。成果や課題を全校で共有し、来年度の活動につなげるため、生徒一人一人が真剣に考え、意見を出し合いました。



